

平成23年11月 定例会

◆（淵上陽一君）3番目の質問は、くまもとグリーン農業についてであります。

蒲島知事が、去る8月2日の定例記者会見で発表されましたように、県では、これまでの環境保全型農業への取り組みを拡大し、安全、安心な農産物を生産、供給するとともに、熊本の宝である地下水を初めとする豊かで美しい自然環境に配慮した農業への取り組みを、くまもとグリーン農業として、本年度から積極的に推進されるとしております。

これは、生産者は、グリーン農業に積極的に取り組むという生産宣言を、消費者には、くまもとグリーン農業で生産される農産物を買って食べる、企業には、くまもとグリーン農業で生産された農産物を社員食堂で使うなど、一人一人が宣言をしていただき、知事が宣言書を交付する仕組みになっています。

この中には、熊本県知事が計画を認定するエコファーマーや全国に先駆けた県認証制度である熊本型特別栽培農産物「有作くん」が含まれており、これまでも本県では、適正施肥、有機物施用、総合的な病害虫防除等の推進によって、化学合成肥料や化学合成農薬の使用量が大幅に削減されてきたことはよく承知しております。

ところで、私は、先日「有作くん」の生産者から、ことして県の認証を受けるための生産をやめようと思っているというお話を伺いました。県の「有作くん」認証を受けるためには、慣行栽培と比べ、化学肥料と化学農薬の使用量を50%以上削減し、有機質肥料を含む肥料の総使用量の制限をする必要がありますので、農家にとって「有作くん」を生産するには大変な手間がかかるなど、さまざまな御苦勞があるわけであります。

しかしながら、消費者の方々は、「有作くん」の生産には賛同されても、実際は、少し値段が高くなると、なかなか手を伸ばして買っていただけません。つまり、評価はしていただけるものの、苦勞に見合うだけの利益が得られないのが現実であります。やめたいという生産者が出てこられても不思議はありません。

実際、化学肥料や化学農薬を全く使用しない有機農業を営む生産者からも、手間に合った価格形成が消費者に理解されていないというお話を、これまでに何度もお聞きしております。

環境に優しい農業、くまもとグリーン農業は、地域資源の有効活用、水資源や生物多様性の保全にもつながることですので、その意義からすれば積極的に進めるべきとは考えますが、経済的に成り立たなければ生産は拡大しません。後継者も育たないのではないかと心配しております。

このような危惧を払拭するためには、まずは農産物の生産方式の違いなどを消費者に正しく理解して認知していただくことが必要だと考えます。もちろん、消費者に認知されたからといって直ちに価格に反映されることは難しいと思っておりますが、継続的な取り組みこそが重要ではないかと思っております。

そこで、くまもとグリーン農業の認知度を高めるための具体的な方策について、農林水産部長にお尋ねいたします。

〔農林水産部長福島淳君登壇〕

◎農林水産部長(福島淳君) くまもとグリーン農業を推進するためには、販路の確保や消費者の理解促進と認知度向上を図ることが大変重要だと考えております。

そのため、販路の確保については、グリーン農業で生産された農産物を、消費者がどこでも手軽に購入できるよう、量販店や物産館などへの常設販売コーナーの設置に取り組めます。

また、幅広い県民の方々が、くまもとグリーン農業へ積極的に参加できるよう、生産宣言、応援宣言制度を新たに設け、11月7日から、ホームページや報道機関を通じて募集を開始しました。

さらに、グリーン農業の認知度を高めるため、県民に広く愛されているくまモンを起用したシンボルマークを定めました。加えて、化学肥料や化学農薬の削減の程度などに応じ、くまモンが背負う四つ葉の色を段階的に変えて販売する農作物に表示することで、購入される際に消費者の方々がわかりやすいよう工夫しております。

これらの取り組みを県民運動として推進するため、生産者を初め、消費者や企業、団体、流通・販売関係者、学識経験者などから成るくまもとグリーン農業推進本部を8月10日に設置しました。来る1月17日には「ささえろ・つながる・ひろげる」をテーマに、くまもとグリーン農業推進県民大会を熊本テルサで開催することとしております。

安全、安心な農作物を供給するとともに、熊本の宝であるきれいで豊かな地下水などを守り育てるくまもとグリーン農業が全国のモデルとなるよう、今後とも県民の皆様とともに取り組んでまいります。

〔淵上陽一君登壇〕

◆(淵上陽一君) この問題は、まずは消費者にどう訴え、認知していただくかというのが一番重要であるというふうに思います。売れなければ生産はふえないわけでありますので、今回くまモンのも見させていただきました。これを理解していただくのはなかなか難しいんであろうというふうに思いますけれども、しっかりと取り組んでいただきますよう、よろしくお願いいたします。